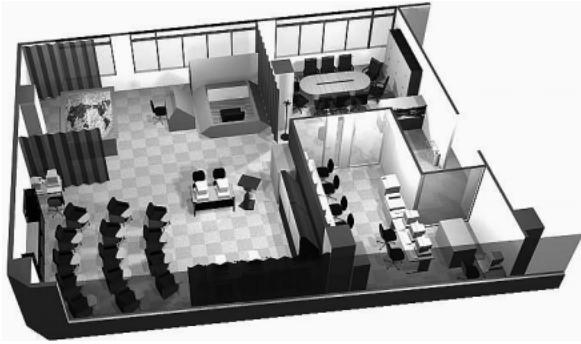


将来統合防衛システムの研究拠点としての三菱ITラボラトリ

MITSUBISHI IT Laboratory for Future Integrated Defense Systems

本社営業窓口 航空宇宙事業本部統合防衛システムグループ
(03) 6716-4417



防衛分野で今後ますます拡大が予想される分野として、情報技術やネットワークを重視した統合システムがある。三菱ITラボラトリは、統合防衛システムの開発に際して重要となるモデリングやシミュレーション技術に関する研究、提案及びデモンストレーション等を実施するための拠点として、防衛庁に近い市ヶ谷にシミュレーション計算機、模擬コックピット、プレゼンテーション設備等を設置したものである。当社の研究成果の展示を行って広く御意見を伺い、今後の事業の拠点とするものである。以下、その概要を紹介する。

1. 設備仕様の概要

設備の主な仕様を表1に示す。シミュレーションサーバを中心として、ネットワークで接続され、かつ任意の計算機等の表示画像をビデオ切替装置により、大型スクリーンに表示可能である。大型スクリーンによる表示例を図1に、情報戦コックピット・フライトシミュレータを図2に、立体表示装置の表示イメージを図3に示す。

2. 特徴/シミュレーション内容

本設備は社内の防衛関連シミュレーション研究の中核となるべく、下記の特徴を有している。

- (1) プラグ&プレイと称する、シミュレーションモデル等の追加・改修の容易なプログラム構成。
- (2) シミュレータ等をネットワークによる分散処理対応とするため、米軍を中心として標準化されたシミュレータ接続

表1 ITラボラトリの主な設備仕様

名称	数量
シミュレーションサーバ	1
グラフィックワークステーション	2
汎用ワークステーション	1
パソコン	7
大型スクリーン	2
情報戦コックピットフライトシミュレータ	1
簡易コックピットシミュレータ	1
立体表示装置	1



図1 プレゼンテーション例

の規約であるHLA (High Level Architecture) に準拠。
(3) ワークステーション、PC等を各種揃え、種々のプロジェクトで幅広く利用可能な環境の提供。

また、現時点で、実施可能な主なシミュレーション内容は表2のとおりである。なお、お客様の要望に応じた、その他の各種シミュレーションも行っている。

3. 今後の展開

現状は、当社の保有技術やシミュレーション等に対する取組みについてのデモやPR的説明が多いが、今後は客先ニーズに対応してシミュレーションによる評価結果の提示や、新規事業のための構想提案、社内のシミュレーション技術の研究等に活用する予定である。また、設備の増設、機能追加等を順次計画中であり、社内の防衛関連部門で広く利用可能なシステムとしていく。

表2 主なシミュレーション内容

名称	主な特徴
弾道弾防空シミュレーション	各種シナリオによる弾道弾防空シミュレーション 米国ソフトとのHLA接続等
航空戦闘シミュレーション	多数の戦闘機、早期警戒機等による防空戦闘のシミュレーション
航空機自律機動シミュレーション	計算機モデルによる2対2又は4対4での中距離域での空中戦闘シミュレーション
情報戦コックピットフライトシミュレータ	操縦者によるITラボラトリ内もしくは名航シミュレータとHLA接続航空戦闘シミュレーション
対潜戦術シミュレーション	対潜ヘリによる潜水艦の搜索、攻撃シミュレーション



図2 情報戦コックピット・フライトシミュレータ

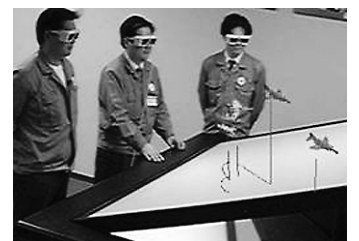


図3 立体表示装置の表示イメージ